

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201636		
法人名	社会福祉法人 エムアール会		
事業所名	グループホームグリーンピア ユニット1		
所在地	札幌市北区篠路1条9丁目1番41号		
自己評価作成日	平成29年5月26日	評価結果市町村受理日	平成29年7月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigyosyoCd=0170201636-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年6月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・入居者様に楽しんで頂けるよう、毎月行事が予定されており、外食や買物、お花見、プチ散歩など外に出掛けられるようにしています。
- ・ホーム独自の委員会を通じて利用者様のより良いサービスに努めています。レク委員会は毎月の行事を定め家族様に参加して頂く機会を増やすなど、コミュニケーションを図れる様にしています。広報委員会では、広報誌「笑顔」を通じ生活状況を知らせています。学習委員会では、利用者様の介護をより良い物にする為、技術や知識の向上に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームグリーンピア」は、JR篠路駅やバス停などにも近い交通の利便性に優れた静かな住宅地に立地している。特別養護老人ホームの運営で培った専門的な技術や知識を活かして職員の育成に力を入れながら、一人ひとりの利用者や家族にきめ細かな対応を行っている3ユニットのグループホームである。清潔感のある建物内は、広々とした使いやすい造りで、小上がりスペースのある居間は、明るい光が注ぐゆったりとした雰囲気になっている。自己評価に全職員で取り組むと共に、前回の課題であった火災以外の災害時の具体的な対応について、全職員で検討しながら詳細なマニュアルを作成している。管理者は、計画的に内部研修を実施し、職員の資質向上にも積極的に取り組んでいる。職員間の連絡ノートを活用したり、日々の連絡を密にしながら全職員で各利用者の状況を常に把握して適切な情報を提供することで、家族との深い信頼関係を構築している。保育園児が来訪して遊戯を披露したり、運動会の見学に出かけるなど、子供たちとの交流にも継続的に取り組んでいる。事業所の納涼パーティーには、近隣住民を招待して交流を深めている。全員で季節に応じた外出をしたり、希望に応じて数人でプチ散歩に出かけるなど、一人ひとりの意向に沿った温かなケアを行っているグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム玄関やフロアに理念が掲げられている他、全ての職員が理念を共有出来るよう、ネームプレート裏に携帯し、いつでも確認、意識出来るようにしている。	運営理念の中に、地域密着型サービスの意義を踏まえた文言が含まれている。職員は、個人目標を設定する際や自己評価作成時に意識している。今後も全職員で定期的に再確認し、更に理解を深めて実践につなげていきたい考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園との交流のや、ホーム前の掲示板で行事のお知らせや、ホーム内の様子等張り出している。	法人の夏祭りや文化祭で地域住民と交流したり、納涼パーティーに近隣住民を招待している。保育園児が来訪して歌や遊戯を披露したり、運動会やお遊戯会などの見学に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年7回開催し、日々の生活の中でのサービスの工夫や行事、活動等を報告している。また、その時に意見などあれば話し合いサービスの向上に役立てる様にしている。	地域役員や民生委員の他、交代で家族に参加を依頼して、職員の研修報告や救急時の対応、協力医療機関との連携などについて説明している。議事録は来訪時に閲覧できるようにし、送付はしていない。	全家族に議事録を送付すると共に、家族の積極的な参加に繋がるように、事前にテーマを設定して案内するなどの工夫に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が市町村の管理者会議に参加して情報を得ると共に、市の担当者に電話相談するなど取り組んでいる。	役所との事務的な手続きは、主に施設長が行っている。保護課の職員が来訪した時に話をしたり、生活保護受給者の介護計画を郵送している。おむつサービスの手続きなどで、管理者が家族に同行して区役所を訪問することもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組み研修や勉強会など学ぶ機会を設けている。ホーム前の道路は交通量が多く危険な為、玄関は止むを得ず家族様の了解を得てボタン操作としている。	「禁止の対象となる具体的な行為」11項目を含む身体拘束廃止マニュアルを整備している。年度初めや入社時には、言葉遣いや対応の心構えについて研修している。身体拘束についての内部研修も年数回実施しているが、正規職員のための研修になっている。	職員全員が「禁止の対象となる具体的な行為」の11項目について理解を深められるよう、計画的な研修の実施を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会等年間スケジュールに組み込まれていて学ぶ機会が多くある。また、会議などで入居者一人」ひとり虐待になっている事はないか確認し防止の徹底をしている。		

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がいる。研修や学習会で学ぶ機会がある。成年後見制度を利用している方がいる為、関係者の方と情報の共有が出来た。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約時は書面を元に十分な説明を行い、理解、納得を得ている。改定時は、依頼文を発送し理解を得て、必要な項目には同意書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所前に意見箱を設置している。家族連絡ノートの活用や、来訪時に話を聞いたり運営推進会議で意見や要望を聞き反映させている。苦情ノートがあり、意見、対応した事を記録し運営に反映させている。	家族連絡帳を準備し、意見や要望が記入できるように工夫している。意見や要望は職員連絡ノートに記入し、口頭で報告して情報を共有している。今後は、更に分かりやすいように些細な意見や職員の気づきを個別に記録したいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のユニット会議や日々の業務の中で、管理者が職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。また、普段ホームにいない施設長等には、管理者から伝達されるほか、リーダー会議に出席した時にはリーダーから直接提案等を行っている。	管理者は、リーダーを通じて各職員の意見や要望を聞いたり、普段から職員に声をかけをして話がしやすい環境作りをしている。休憩時間の時間配分などについて、職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日々職員の働きぶりを観察すると共に話を聞き状況把握を行い、上司に報告がなされ、職場環境の整備などが行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を元に個々のレベルに合わせた研修を受ける機会が確保され外部研修後は内部研修として、会議で報告、検討し全員が学習出来るようにしている。また、自主的な学習も毎月行い、ケアの向上に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市や区の管理者会議に参加し情報交換等の交流をしている。職員も研修会等に参加し、他事業所と交流の機会を持ち、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目		自己評価(ユニット1)		外部評価(事業所全体)	
				実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		入居見学、相談時に利用者様、家族様の現状や要望、ホームでの生活に対する不安等を聞き話をすることで、安心して生活が出来るように関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている		見学の段階から十分に話を聞く事で、困っている事や不安等を把握し、安心して頂けるよう関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		相談時、本人様や家族様の思いなど現状を把握し、必要なサービスは無いかな検討しながら対応している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている		昔話や色々な経験などを聞き、コミュニケーションを図っている。昔の習慣や言葉など学ぶ事が沢山ある。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている		来訪時に日々の様子を伝えたり、家族連絡帳を活用し家族様とのコミュニケーションを図っている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		家族様来訪時には居室でゆっくりして頂けるよう配慮している。		近隣に住んでいた方や入居前の施設で一緒だった友人が来訪することもある。友人に電話をする利用者もいる。家族と相談しながら、利用者の希望に応じて職員が理美容室に同行している。家族と一緒に買い物や公園など出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている		個性もある為、居心地良く過して頂けるよう、ソファの位置や座席等配慮し、職員もそれぞれ孤立せずに関わり合いが持てる様に支援している。			

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された家族様よりの電話が来て、近くで相談できないことについての相談があった。年賀状のやり取りもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活に対する希望、日々の会話や行動などから思いを把握し、本人本位に考え検討している。	入居時や遠慮しているような時は、家族に本人の表情や様子を伝えながら思いや意向を確認している。趣味や嗜好など変化があれば、「私の暮らし方シート」に随時追記していきたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様からの情報や生活環境などを記録して残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンを把握し、体調の変化等ある場合、記録に残している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思い、家族様の思いや希望を取り入れ情報収集し、月2回の会議で話し合い計画し作成している。	新規利用者は1ヶ月で介護計画を見直している。更新時は家族の意向を聴き取り、「24時間シート」に1週間記録して本人の状況を把握し、計画作成担当者を中心に全職員で評価を行い、短期目標3ヶ月、長期目標6ヶ月で見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきやケアプランの実践は個人記録に残し、職員間も情報を共有出来るようノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況やニーズに対応して、理美容や病院受診、買い物や外出支援など柔軟に対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園との交流や、近隣の喫茶店の利用など楽しみ事も取り入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医の説明を行い同意を得て、事業所の往診を行っている。また、他医療機関への受診も支援している。	協力医の往診の他、以前からのかかりつけ医の往診を受けている利用者もいる。家族と専門医を受診したり、職員が同行して整形外科や眼科に出かている。受診記録は個別に記録している。	

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が週1回勤務し入居者様の健康チェック等を行うとともに、入居者様の体調変化時には、管理者を通じて看護職員へ24時間連絡出来る体制としている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院共に管理者が窓口となり、入居者様が不安なく治療を受けられる様、また早期退院に向けて、医療関係者と情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応について指針があり入居時に説明している。心身状態変化しグループホームでの生活が困難になった場合は、管理者が相談にのり支援している。	利用開始時は、重要事項説明書に沿って事業所として可能な対応について説明している。医師の判断の下に看取りに入る場合は、指針を説明して家族の意向を確認している。希望に応じて看取りも行うが、現在まで実施はしていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルが直ぐ見える所にある。又、応急手当、AEDの訓練など、職員の学習年間スケジュールに組み込まれ実践力を身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回行い指導を受けている。また、初期行動マニュアルを備え、研修等も行っている。非常用の備蓄も用意している。	年2回、主に夜間の火災を想定した避難訓練を運営推進会議時などに実施している。内1回は消防署の協力を得ている。火災以外の対応について、具体的なマニュアルを作成している。災害備蓄品を再確認し、更に充実させたいと考えている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	其々に合った声掛け、コミュニケーションを取っている。	呼びかけは「さん」付けを基本に、希望に沿って愛称を使う場合もある。入社時研修や定期的な勉強会で接遇などを学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話を傾聴し思いや希望を察し、自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先してしまう場合もあるが、出来る限り個人のペースに合わせて行える様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で決められる方には自分で決めて頂いている。自分で決められない方はいつも同じ様にならないよう考え、おしゃれ出来るよう支援している。		

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	茶碗拭き、もよしのヒゲ取りなど下ごしらえ、片付けなど個々で出来る力を活かし職員と一緒にやっている。	食材会社の献立に誕生日や季節行事のメニューが組み込まれている。一部の利用者がいなり寿司づくりや盛り付けを手伝うこともある。畑で採れた大根やキュウリを漬物にして食卓に乗せている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、好き嫌いに配慮し、食事量、粥、白米への変更、刻みやトロミなど、その人に合わせ提供している。水分量は主治医の助言を元に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	身食後それぞれに合った口腔ケアを行っている。毎日夜間義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、パターンを把握し時間でトイレ誘導を行い、夜間も声掛けやパット交換を行っている。	自力でトイレで排泄できる方以外は、状態に応じて誘導、介助を行っている。全員の排泄記録をつけパターンを把握している。誘導時は周りに聞こえないよう、プライバシーに配慮しながら誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれに応じた下剤の調整を行っている。また、個人で牛乳を朝飲んでる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は午前と決まっている。一番に入りたい方、声掛けに対して入らないと拒否がある場合は、タイミングを計り日にちを変更し、気分良く入浴できる工夫をしている。	毎日入浴ができ、主に午前の時間帯で各利用者が週2回、入浴できるようにしている。拒否がある場合は翌日にずらして対応している。希望に合わせて入浴順を決めたり、同性介助としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせて就寝して頂いている。日中もその日の状態に合わせて、居室で休んで頂くなどの支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現病の把握をして薬情報ファイルもすぐに見れる所に置き、副作用など症状の変化の確認が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いの声掛けなど行い役割としているが、状況など見て無理強いはしていない。冬期間は出来ないがそれ以外は畑を見に行ったり気分転換を図っている。		

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様より外出、外泊、ご本人様の希望も含めて出掛けられるよう支援をしている。ホームでも買物レク、食事レク等を行っている。	日常的に玄関前や周辺を散歩したり、プチ散歩として少人数で喫茶店などに出かけている。コミュニティセンターの花壇を見に行ったり、同一法人の特別養護老人ホームの集会に出かけることもある。年間行事では、法人の車を使い、大倉山ジャンプ場や白い恋人パークなどに行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設行事で買物に出かけた時は、好きな物を買って楽しんでいただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎは行っている。希望があれば家族様に電話をかける支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間やフロアの壁には季節に合わせた飾りつけをしている。温度や湿度の管理も行い、不快にならない様配慮している。	共用空間は広く、南に面して大きな窓がある。居間に小上がりのスペースもあり、ゆったりとした雰囲気である。壁には風景画や手作りの装飾があり、随所に遊び道具なども置かれている。明るさや温度湿度も調整され、清掃も行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では気の合う方々が近くで座って頂いている。また、食堂でも過ごして頂けるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や使い慣れた物を持ち込まれ居室でも居心地良く過ごされている。	それぞれの居室にはテレビや家具、仏壇など利用者の馴染みの品が持ち込まれ安心して過ごせる場所となっている。壁には寄せ書きやカレンダー、家族の写真などを自由に飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札を付け、トイレには大きく貼り紙をして分かりやすく工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201636		
法人名	社会福祉法人 エムアール会		
事業所名	グループホームグリーンピア ユニット2		
所在地	札幌市北区篠路1条9丁目1番41号		
自己評価作成日	平成29年5月23日	評価結果市町村受理日	平成29年7月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様に楽しんで頂けるよう、毎月行事が予定されており、外食や買物、お花見、プチ散歩など外に出掛けられるようにしています。 ・ホーム独自の委員会を通じて利用者様のより良いサービスに努めています。レク委員会は毎月の行事を定め家族様に参加して頂く機会を増やすなど、コミュニケーションを図れる様にしています。広報委員会では、広報誌「笑顔」を通じ生活状況を知らせています。学習委員会では、利用者様の介護をより良い物にする為、技術や知識の向上に取り組んでいます。
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0170201636-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年6月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. 大いに増えている 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関やフロアに掲げられ、常に目にする事が出来る。また、管理者と職員のネームプレートの裏側にも表示されており、常に意識して業務を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園の慰問があったり、施設行事に近隣の方が参加している。施設前の掲示板に行事案内や活動の様子を掲示し交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事等で地域の方に会った時に理解を求めたり、運営推進会議の時に取り上げる様にしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年7回開催し、日々の生活の中でのサービスの工夫や行事、活動等を報告している。また、その時に意見等あれば話し合いサービスの向上に取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が市町村の管理者会議に参加して情報を得ると共に、市の担当者に電話相談するなど取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設独自の学習委員会を中心に勉強会が行われ、会議でも定期的に取り上げている。玄関の自動ドアは建物の前が交通量が激しく危険な為、家族様の同意を得てボタン操作としている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修会の参加や施設勉強会で事例を検討するなど学ぶ機会を多く持ち、理解を深めている。また、日々職員間で声掛け合い、虐待となりかねない行為を行わないよう防止に努めている。		

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修会の参加や施設勉強会で理解を深めている。施設内の他ユニットで活用している入居者がおり確認している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約時は書面を元に十分な説明を行い、理解、納得を得ている。改定時は依頼文を発送し理解を得て、必要な項目には同意書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所前に意見箱設置したり、家族様の来訪時に意見や要望を伺うなど、運営に反映させている。運営推進会議でも外部者のいる場で意見や要望を、お聞きしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、日常業務中でも個別に管理者に聞いてもらえる機会があり、反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日々職員の働きぶりを観察すると共に話を聞き状況把握を行い、上司に報告がなされ、職場環境の整備などが行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を元に個々のレベルに合わせた研修を受ける機会が確保され外部研修後は内部研修として、会議で報告、検討し全員が学習出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市や区の管理者会議に参加し情報交換等の交流をしている。職員も研修会等に参加し、他事業所と交流の機会を持ち、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居見学、相談時に利用者様、家族様の現状や要望、ホームでの生活に対する不安等を聞き話をすることで、安心して生活が出来るよう関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階から十分に話を聞く事で、困っている事や不安等を把握し、安心して頂けるよう関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人様や家族様の思いなど現状を把握し、必要なサービスは無いかな検討しながら対応している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来ない事を支援する気持ちで行動し、日々の生活の中で協力しながら共に支え合う関係を築くようにしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時は家族連絡帳や口頭で日々の様子を伝え、ゆっくりと話が出来るように心掛けている。行事参加の機会を設けたり、事業所独自の広報誌を郵送するなど関わりを多くしている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活の中で馴染みの人や場所を聞き取り、記録に残すなど関係が途切れない様にしている。来訪時は、居室で気兼ねなく過ごしていただける様に配慮している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の会話や行動の中から入居者同士の関係を把握し、居間ソファの位置を考えたり、職員も一緒に雑談するなど、孤立しない様に努めている。			

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が窓口となって相談や支援に努め、機会があれば家族様と連絡をとるなど、これまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で個々の希望や意向を把握し、定期的に会議などで話し合い職員同士で共有している。困難な場合は、家族様に相談し検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に把握するほか、日常の生活の中で少しずつ情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や会議等で情報を共有し、個々の現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様や家族様の意向を取り入れて、会議で介護支援専門員を中心にモニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に様子やプラン実践結果など細かく記録し情報を共有している。気づきや工夫がある場合は事業所独自の申し送りノートを活用するなど、会議で検討し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況やニーズに対して、理美容や病院受診、買物や外出支援など柔軟に対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園との交流や、近隣の喫茶店の利用など楽しみ事も取り入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を受診する場合、事業所に往診にこられる協力医を主治医に変更する場合もあり、本人様や家族様の希望を大切に支援している。		

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が週1回勤務し入居者様の健康チェック等を行うとともに、入居者様の体調変化時には、管理者を通じて看護職員へ24時間連絡出来る体制としている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院共に管理者が窓口となり、入居者様が不安なく治療を受けられる様、また早期退院に向けて、医療関係者と情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応について指針あり、入居時に説明している。心身状態の変化時は、随時家族様に報告し、グループホームでの生活が困難になった場合は、管理者が相談にのり支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に事業所内で救命処置講習会や施設学習会を行っている。救命救急時のマニュアルが常に手の届く所にあり、急変や事故発生時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練では、運営推進会議の参加者や近隣の方にも協力を得て、実際に通報や避難訓練、消火訓練を行い、初期行動マニュアルに沿って研修会もあり対応出来る様に努めている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に勉強会を行い、人格の尊重と、プライバシーを損ねない様に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けする場合は、思いや希望を表しやすい様にしたり、複数の内容を用意し自己決定出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの人格を尊重し、どの様に過ごす事が一番うれしいか把握に努めて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしたり、パーマや毛染めは希望で行っている。身だしなみやおしゃれは本人様の好みを活かせるように支援している。		

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る入居者様には、調理の片付けの手伝いをお願いしている。個々の誕生日には、手作りのケーキや特別メニューもあり喜ばれている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの健康状態や習慣に応じて、食事量の調節や塩分を抑えたり、刻むなど対応している。飲水量はチェック表に記入し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は口腔ケアの声掛けをし、介助が必要な入居者様は職員が行っている。夜間は毎日義歯洗浄し清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を見て排泄状態を把握し、さりげなく促したり、雰囲気を感じ察し誘導する事で、失敗やおむつの使用を減らせている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりに排便コントロールがあり、下剤調整を行っている。また、運動や水分補給、乳飲料の提供など予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴チェック表を見て順番や体調を確認し、希望を聞いて一人ずつゆったりと入浴していただいているが、安心安全の為、職員が多い時間帯に限られている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋で休みたい昼寝がしたいなど、希望の時には対応している。夜間は、ゆっくりと眠れる様に室温や寝具の調整、就寝時間など一人ひとり希望に沿って支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報は確認でき、処方薬の効果や副作用など把握している。薬の変更や臨時薬時は、症状の変化など確認し記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意な事を把握し、お手伝いの声掛けやパズル、読書など好みに合わせて提供し気分転換出来る場面作りをしている。		

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット2)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様と外食や散歩に出掛ける入居者様もいる。施設行事では、何時もと違う場所へ行ったり、本人様の希望を把握し、季節毎に少人数でプチ散歩もを行っている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設行事で買物に出かける時には、好きな物を買って楽しんで頂ける様に支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙が届いている。入居者様や家族様の希望がある場合は積極的に支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、季節毎に手作りの装飾を施し季節感を取り入れている。冷房や床暖で温度調整、日差しの強い時はカーテンを閉めたり居心地良く過せる様に工夫している。また、刺激になるような音や色にならないよう気配りも行っている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間ソファーや食席で、一人ひとり好きな場所で過ごす事が出来るように、また、気の合う人同士が思い思いに過ごせる様に居場所の工夫もしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、使い慣れた物や好みの家具が置かれたり、家族様との記念写真や誕生日カードが飾ってあり居心地良く過せる様な工夫をしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内はクッションフロア、バリアフリーで通路が広く、車椅子同士がすれ違う事が出来る。トイレ内や通路など介助バーが備付けられているなど、安全に生活を送れる様に工夫している。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201636		
法人名	社会福祉法人 エムアール会		
事業所名	グループホームグリーンピア ユニット3		
所在地	札幌市北区篠路1条9丁目1番41号		
自己評価作成日	平成29年5月22日	評価結果市町村受理日	平成29年7月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様に楽しんで頂けるよう、毎月行事が予定されており、外食や買物、お花見、プチ散歩など外に出掛けられるようにしています。 ・ホーム独自の委員会を通じて利用者様のより良いサービスに努めています。レク委員会は毎月の行事を定め家族様に参加して頂く機会を増やすなど、コミュニケーションを図れる様にしています。広報委員会では、広報誌「笑顔」を通じ生活状況を知らせています。学習委員会では、利用者様の介護をより良い物にする為、技術や知識の向上に取り組んでいます。
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0170201636-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年6月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど揃っていない		○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど揃っていない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット3)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム玄関やフロアに理念を掲げ、職員のネーム裏にも理念を身につけ、いつでも確認出来るよう共有し、実践されている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	掲示板を設置し日常の様子を地域の皆さんに見て貰えるようにしている。また、近隣の保育園との交流や近所の方を行事に招いての交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での報告や行事への参加、ホーム前の掲示板を活用し日々の様子などをお知らせし、地域の人の知って貰うようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年7回開催し、日々の生活の中でのサービスの工夫や行事、活動等を報告している。また、その時に意見等あれば話し合いサービスの向上に取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が市町村の管理者会議に参加して情報を得ると共に、市の担当者に電話相談するなど取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に学習会や研修会に参加し知識を身につけ、全ての職員が理解するように努め実践している。ホーム前の道路は交通量が多く危険なので、止むを得ず家族様の了解を得てボタン操作としている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修会に職員が参加し、学習会で発表し議論したり、記事を回覧し職員一人ひとり日々防止に努めている。		

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット3)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の参加や学習会を行い、理解を深める様学んでいる。現在活用されている方が1名おり、より理解出来るように学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約時は書面を元に十分な説明を行い、理解、納得を得ている。改定時は依頼文を発送し理解を得て、必要な項目には同意書を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関前にご意見箱を設置している。家族様が来訪時に意見要望を聞いたり、また運営推進会議でも意見や要望を聴き取り、ホームの運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の会議を開いて意見や提案出来る場を設け、また出席出来ない時も事前会議計画表を回覧し、意見を提案出来るようにしている。他にも日々必要な事があればその都度話しあっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日々職員の働きぶりを観察すると共に話を聞き状況把握を行い、上司に報告がなされ、職場環境の整備などが行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を元に個々のレベルに合わせた研修を受ける機会が確保され外部研修後は内部研修として、会議で報告、検討し全員が学習出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市や区の管理者会議に参加し情報交換等の交流をしている。職員も研修会等に参加し、他事業所と交流の機会を持ち、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット3)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居見学、相談時に利用者様、家族様の現状や要望、ホームでの生活に対する不安等を聞き話をすることで、安心して生活が出来るように関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階から十分に話を聞く事で、困っている事や不安等を把握し、安心して頂けるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人様や家族様の思いなど現状を把握し、必要なサービスは無いか検討しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事の片付けを行って頂いたり、若い職員の知らない季節毎の行事の事を教えて頂いたり、共に支え合い生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様連絡帳を用いて要望を聞いたり、日々の様子を知らせたり、協力が必要な時は協力を求めたり、行事等も家族様に参加して貰い関係性を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様や知人の方、親戚の方の訪問や、家族様宅への外出、墓参りなど出来るだけ続けられる様、家族様に協力して頂き支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で関わりを持てる様に家事作業を一緒に行ったり、レクリエーションや茶の時間などコミュニケーションを取れる機会を作ったり、支援に努めている。		

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット3)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が窓口となって相談や支援に努め、機会があれば家族様と連絡をとるなど、これまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や生活の中から意向を取り入れ支援している。困難な場合は家族様の意見や職員間で話し合いを行い、思いに添えるように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報を頂くと共に、日々の会話や家族様からの追加の情報を得て把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や状況を観察し記録に残し、職員間で情報交換を行い、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にあセスメントを行い、ケア会議で話し合い評価を行い、ご本人や家族様の要望を取り入れ状態に合ったプラン作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の様子や介護計画の実践が記入されており、職員間での情報の共有が行われている。また、見直しの際には、その情報が活用されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況やニーズに対して、理美容や病院受診、買物や外出支援など柔軟に対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園との交流や、近隣の喫茶店の利用など楽しみ事も取り入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、家族様にも納得して頂いた上で、ホームのかかりつけ医に定期的に往診して頂いている。また専門の治療が必要な方には専門のかかりつけ医に診て頂ける様に支援している。		

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット3)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が週1回勤務し入居者様の健康チェックを行うとともに、入居者様の体調変化時には、管理者を通じて看護職員へ24時間連絡できる体制としている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院共に管理者が窓口となり、入居者様が不安なく治療を受けられる様、また早期退院に向けて、医療関係者と情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応について指針があり入居時に説明している。家族様には重度化した時に、今後の方向性について家族様、医師、管理者と話し合いをさせて頂き、支援する様になっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応マニュアルを作成し、いつでも確認出来る状態にしており、毎年、救急対応や事故発生時の勉強会も行い、実践出来るように備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行うと共に、初期行動マニュアルに沿って、地震や水害時に合わせた対応の話し合いも行っている。近くに母体施設があり協力体制が出来ている。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、失礼のない言葉掛けや対応を行っており、個々の状態に合わせて対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を表しやすい様、会話や表情からくみ取り、過しやすいうように出来る限り希望に添うよう対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他の入居者様との関係や行事等によっては難しい事もある。一人ひとりのペースを大切にし希望に添うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る方は毎日自ら選んだ洋服に着替えている。身だしなみも整えられる様、声掛けを行い支援している。		

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット3)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状態に合わせて食事の形態を変えて提供したり、下膳や食器拭き等の片付けを行って頂いている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は記録し把握。個々の状態に合わせて量の調整やミキサー食、刻み食と提供。栄養不足の方は、医師に補助食品の処方をして頂き提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けをし、介助が必要な入居者様は職員が行っている。夜間は毎日義歯洗浄し清潔を保っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を見て排泄状態を把握し、さりげなく促したり、雰囲気を感じ察し誘導する事で、極力失禁のないよう支援している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや乳製品を使用したり、水分多目に摂るように心掛けている。体操など身体を動かす時間を作っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	殆どの方が介助が必要になっているが、入る順番など出来るだけ希望に合わせて、気分良く入る事が出来るようにしている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせて就寝して頂いている。また日中も、その日の状態に合わせて居室で休んで頂くなど支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情報を纏めたファイルがあり薬の内容を把握出来ている。また処方内容が変わった際には、必要に応じてバイタル測定するなど状態の観察を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合せて家事での役割や散歩など、楽しみ事を提供し、気分転換を図っている。			

グループホームグリーンピア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット3)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様と外食や散歩に出掛ける入居者様もいる。施設行事では、何時もと違う場所へ行ったり、本人様の希望を把握し、季節毎に少人数でプチ散歩もやっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設行事で買物に出かけた時は、好きな物を買って楽しんで頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙が届いていたり、電話を受ける方もいる。入居者様や家族様の希望がある場合は積極的に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に手作りの装飾を施し季節感を取り入れている。冷房や床暖で温度調整、日差しの強い時はカーテンを閉めたり居心地良く過せる様に工夫している。また、刺激になるような音や色にならないよう気配りも行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間ソファや食席で、一人ひとり好きな場所で過ごす事が出来るように、また、気の合う人同士が思い思いに過ごせる様に居場所の工夫もしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、使い慣れた物や好みの家具が置かれたり、家族様との記念写真や誕生日カードが飾ってあり居心地良く過せる様な工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内はクッションフロア、バリアフリーで通路が広く、車椅子同士がすれ違う事が出来る。トイレ内や通路など介助バーが備付けられているなど、安全に生活を送れる様に工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム グリーンピア

作成日：平成 29年 7月 25日

市町村受理日：平成 29年 7月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議の議事録はご家族様来訪時に閲覧できるように事業所に備えているが、ご自宅には送付していない。 会議には、町内会役員、民生委員等に参加して頂いている他、ご家族様に交代で参加をお願いしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 議事録をご家族様の自宅に送付し、運営推進会議に参加出来ないご家族様へも積極的な情報提供を行う。 予めテーマを設定したうえ、早めに会議案内を行い、ご家族様に積極的に参加して頂く。 	<ul style="list-style-type: none"> 議事録を、ご家族様への請求書送付時に同封する。 予めテーマを設定したうえ、翌々月開催予定の運営推進会議のお知らせを、ご家族様への請求書送付時に同封する。 	1カ月
2	6	各ユニットの研修会、学習会の対象は常勤職員のみとなっており、非常勤職員には、管理者等が個別に伝達、指導している。	非常勤職員を含む全職員に研修の機会を与え、身体拘束をしないケアの実践に取り組む。	月に1回程度、3ユニット全ての非常勤職員が集まりやすい時間帯に、管理者、ケアマネ等が講師となり、非常勤職員対象の研修会を開催する。	1カ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。